

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを とともに生きよう感謝の心で

- 進んで学び、進んで考え、進んで活用する子を育てます(知)
- 感謝の気持ちと思いやりで心をつなぐ子を育てます(徳)
- 自分やみんなの命や体を大切にすることを育てます(体)
- 公共心や規範意識を大切にし、社会の役に立とうとする子を育てます(公)
- コミュニケーション能力を高め、視野を広げていくことができる子を育てます(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<認め合う力>
<言語活用能力>
<問題発見・課題解決>

具体化した資質・能力

進んであいさつする態度
自分らしさを見つける力
自分の思いや考えを相手に伝える力
問題を発見する力

中期取組目標

○子どもたちの対話的な学びを通して、自分の思いや考えを表現できる子どもを育てます。

- ・1年目は学習の中で自分らしさを見つけられる授業づくりを推進します。
- ・2年目は子どもたちが問題を発見し、自分の思いや考えを表現する力を育てます。
- ・3年目は表現することで自分の考えを深めることができるようにします。

○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。

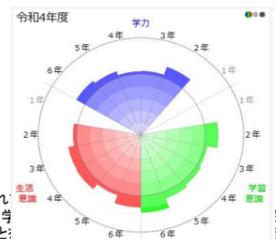
- ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業づくり	①各教科や活動を通して育成を目指す資質・能力に向かい、指導事項を明確にして児童が主体的に課題に取り組めるようにする。 ②校内重点研究では、児童が互いに認め合う居心地のよい学級・学校づくりに取り組み、主体的な問題発見・解決能力の育成を目指す。
担当	教育課程部

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
○横浜市学力状況調査では、高学年の方が市の平均を上回っている傾向にあり、学校での学習内容が定着していることが分かる。
○学習意識調査では、教科による差はあるが、どの学年も概ね市の平均を上回っており、学習に主体的に取り組む態度が育成されているといえる。
○生活意識調査については、どの学年も市の平均を大きく上回っており、きちんとした生活態度や生活リズムを毎日過ごすという意識が高いことが伺える。
○保護者・児童の学校アンケート結果から、「お父さんは、必要なことを相手に自分から伝えようとしている」や「自分の意見や気持ちを言葉で伝えていますか」の項目に課題を感じていることがわかっている。



(2) これ
○学力向上
すること
を行った。
○知的好奇心をもたせ思考力を高め、問題解決を進める学習の流れに、ICTの活用も取り入れた単元構想を工夫した。

今年度の目標

○子どもたちが各教科や活動の資質能力に向かって、自分なりの課題解決に向かうことができる授業づくりを推進する。
○児童が互いに認め合う居心地のよい学級・学校づくりに取り組み主体的な課題解決能力を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが課題を把握して主体的に取り組めるようにする。
- 教材との出会いを大切に、自分の思いや考えをもつことができるようにする。また、ペアやグループの友達との思いや考えを相手を見て聴くことができるようにする。
- 言語活動では、「ことばのたからばこ」を活用し、語彙を増やしていき、自分の思いや考えを伝えられるようにする。
- 子どもたちの思いや考えを表現する時間の確保をして、自分の考えをもてるようにする。
- 何人かの児童に発表してもらったり、教師が例を挙げたりして、具体的なイメージを共有して、子どもが安心して自分の考えを表現できるようにする。
- 材と関わる時間を十分とすることで、自分の考えや伝えるべきことをもつことができるようにする。また、毎日自分の考えを表現する機会を作り、感じたことを言葉にできるようにする。
- 言語活動を通して、相手に伝える内容を明確にし、目的や意図に応じて言葉を選んだり、文章の構成を考えたりすることができるようにする。
- グループ学習に取り組むことで、他者との関わりを促し、自分の思いを表現できるようにする。
- 単元の見直しを立てることで、安心して学習に取り組めるようにする。

下半期

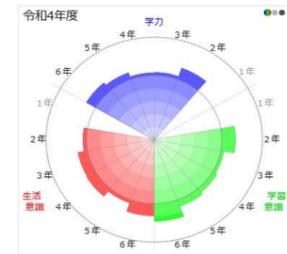
- 単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが課題を把握して主体的に取り組めるようにする。
- 教材との出会いを大切に、自分の思いや考えをもつことができるようにする。また、ペアやグループの友達との思いや考えを相手を見て聴くことができるようにする。
- 言語活動では、語彙を増やしていき、自分の思いや考えを伝えられるようにする。
- 子どもたちの思いや考えを表現する時間の確保をして、自分の考えをもてるようにする。
- 何人かの児童に発表してもらったり、教師が例を挙げたりして、具体的なイメージを共有して、子どもが安心して自分の考えを表現できるようにする。
- 材と関わる時間を十分とすることで、自分の考えや伝えるべきことをもつことができるようにする。また、毎日自分の考えを表現する機会を作り、感じたことを言葉にできるようにする。
- 言語活動を通して、相手に伝える内容を明確にし、目的や意図に応じて言葉を選んだり、文章の構成を考えたりすることができるようにする。
- グループ学習に取り組むことで、他者との関わりを促し、自分の思いを表現できるようにする。
- 単元の見直しを立てることで、安心して学習に取り組めるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳・人権教育	①道徳の授業を要として、豊かな心の育成を目指して学校教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。②年間を通して進んで挨拶をする態度を養う。③一人ひとりの自尊感情を育て、自分も他人も大切にしようとする心を育む取り組みを行う。
担当	道徳部・人権教育

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童の実態



○本校の児童は、人とかかわることに関しては好きであるが、自分の思いを伝えたりすることが苦手である。
○コミュニケーションの基本である挨拶ができていない。
○自分に良いところがあるとは思っているが、自分らしさ発揮できていない。
○相手のことを大切にできていない。
○人とかかわることは好きである。

(2) これまでの学校の取り組み状況

- 道徳の時間の充実
- 児童会を中心としたあいさつ運動
- 人権週間の取り組みを行う。
- 人権意識を高める体験的な活動活動(盲導犬体験)

今年度の目標

○道徳科を通して、自分らしさや、友達の良さを見つけることの大切さがわかり、助け合ったり支えあったりしようとする態度を養う。
○福祉プログラムなどの活用を通して人権について学び、命の尊さや思いやりの心などの人権尊重の意識を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 別業をもとに、学習の総合化を意識した授業を行い、他教科・行事活動などの学校生活と関連付けて、道徳教育を行っていく。
- 年間指導計画に沿って授業を行い、全学級の道徳科の授業公開を年一回以上実施する。
- 児童を取り巻く、教職員・保護者・地域の方々と一緒に挨拶を奨励していく。
・学校によりてあいさつの取り組みを伝えていく。
・児童会を中心に挨拶の大切さを伝え、挨拶を広げていくための挨拶運動などの取り組みを行っていく。
- 職員会議にて「配慮を要する児童」についての情報交換を行う。
- 人権研修会を通して教職員の人権教育に対する意識を高める。
- 12月に人権週間の取り組みを行う。
- 市や区の研究会や研修会への参加を通して、研究・実践されているさまざまな事例を積極的に学び取る。
- 各教科・領域などで指導実践を推進する。
《活動例》 ・縦割り活動班での清掃活動 ・講師を招いての研修 ・盲導犬体験など

下半期

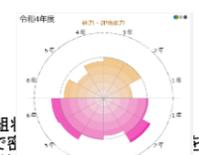
- 別業をもとに、学習の総合化を意識した授業を行い、他教科・行事活動などの学校生活と関連付けて、道徳教育を行っていく。
- 年間指導計画に沿って授業を行い、全学級の道徳科の授業公開を年一回以上実施する。
- 児童を取り巻く、教職員・保護者・地域の方々と一緒に挨拶を奨励していく。
・学校によりてあいさつの取り組みを伝えていく。
・児童会を中心に挨拶の大切さを伝え、挨拶を広げていくための挨拶運動などの取り組みを行っていく。
- 職員会議にて「配慮を要する児童」についての情報交換を行う。
- 人権研修会を通して教職員の人権教育に対する意識を高める。
- 市や区の研究会や研修会への参加を通して、研究・実践されているさまざまな事例を積極的に学び取る。
- 各教科・領域などで指導実践を推進する。
《活動例》 ・縦割り活動班での清掃活動 ・講師を招いての研修 ・盲導犬体験など

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
体力向上 健康安全教育	①年間を通して、体育の学習などを通して、楽しく継続的に体を動かす習慣を身につける。②体育の学習では、子どもたちが関わり合い高め合いながら、個々の運動能力を向上できるような指導法や教材、場の設定などの工夫をする。③家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。
担当	保健安全部・体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態
○横浜市体力・運動能力調査の体力調査では、コロナ前には横浜市の平均を超える種目・平均に近い種目が多かったが、令和3年度は横浜市の平均値を超える結果が出た種目はほとんどなかった。
生活実態調査では、各学年の課題がばらばらで、生活習慣に対する各家庭の意識の差や子どもたちの意識の差が伺える。また、「運動をほとんど毎日している」と答えた児童は平均よりも少ないことが分かる。
○校内の実態調査等の結果を見ると、子どもたちの手洗いをしているという実感は増えているが、校内の手洗い場の石鹸の減りの実態をみると、高学年になるほどまだまだ手洗いへの意識が低いようである。
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査から、「運動が好き」と答えた児童は95%に達することが分かる。
○給食では、学校全体で残食が極端に多いわけではないが、成長段階に見合った食事の量を調整する力が身につけていない。また、大豆や牛乳など体をつくるもととなる食材が苦手な児童が多い。



(2) これまでの学校の取組
○体育科では、コロナ禍で高められるような授業づくり;
○一校一実践運動では、縄跳び週間を実施し、個々の体力向上を図った。
○感染症を予防するためには丁寧な手洗いが大切であることを、実験や動画を通じて児童に伝え、意識を高めた。

今年度の目標

○様々な運動に触れ合う機会を増やし、友だちと関わり合いながら楽しく運動に取り組み姿勢を養う。
○運動と睡眠のバランスの大切さを理解して、主体的に生活習慣を改善しようとする態度を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 個々の運動能力の課題を知り、その解決に向かって取り組めるよう、スポーツテストや健康診断の結果を一人ひとりの児童が振り返る時間を設定する。
- 体育の授業では、個々の課題が明確になり、課題の向上に向かって学習に取り組めるよう学習カードにめあてとふりかえりをまとめるようにしたり、友だちと学び合って高めあえる場の設定をしたりする。
- 運動を楽しみながら、自分の体力の向上を実感できるように、年度初めから一年を通して縄跳びに取り組む集会等を行う。運動の楽しさを知り、主体的に運動に取り組む資質を育てるために、運動委員を中心に休み時間の運動の仕方についても検討する。
- 家庭科や保健の学習で、栄養バランスのよい食事と運動の双方の大切さを意識できるよう、栄養士が連携して学習を行う。
- 学校保健委員会では、睡眠をしっかりすることが免疫システムの活性化を促し毎日を健康に過ごすことにつながることを理解させ、児童が自ら睡眠や運動について考え実践できるようにする。
- 保健の学習では、担任と養護教諭が連携し、専門性を生かした授業に取り組む。

下半期

- 体育の授業では、個々の課題が明確になり、課題の向上に向かって学習に取り組めるよう学習カードにめあてとふりかえりをまとめるようにしたり、友だちと学び合って高めあえる場の設定をしたりする。
- 運動を楽しみながら、自分の体力の向上を実感できるように、年度初めから一年を通して縄跳びに取り組む集会等を行う。運動の楽しさを知り、主体的に運動に取り組む資質を育てるために、運動委員を中心に休み時間の運動の仕方についても検討する。
- 家庭科や保健の学習で、栄養バランスのよい食事と運動の双方の大切さを意識できるよう、栄養士が連携して学習を行う。
- 学校保健委員会では、早起きを実践するには1日の生活の仕方を工夫することが必要であり、昼間に太陽の光を浴びて体を動かすことが大切であるに気づかせ、実践につなげる。
- 保健の学習では、担任と養護教諭が連携し、専門性を生かした授業に取り組む。